

2023 年度第 5 回 11 月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2023 年 11 月 15 日（水）
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数 9 名
返信総数 3 名
出席総数 6 名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	大森玲子
	委員	石松英昭
	委員	和久井要子
	委員	佐子達仁
	委員	若井明香
	委員	鈴木正人

4. 議 題

- (1) 開局 60 周年記念 CRT ラジオスペシャル
「～戦火の街 ウクライナに想う～」について
放送日 9/17（日）10：30～11：00

- (2) その他

5. 議事内容

- (1) 開局 60 周年記念 CRT ラジオスペシャル
「～戦火の街 ウクライナに想う～」について
番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明

【概要】

ロシアのウクライナ侵攻が続き、世界的な問題となっている中、栃木県宇都宮市出身のルポライター、丸山美和（まるやま・みわ）さんは現在、ウクライナの東隣の国ポーランドに在住し、大学で教鞭をとっています。丸山さんは授業の傍ら、人道支援のためこれまでに約 30 回にわたってウクライナに現地入りしており、ウクライナの現状を肌で感じ取っています。そこで番組では丸山さんの現地取材を中心に様々な角度から、故郷とは何か？ 家族とは何か？ 戦争とは何か？ を栃木県民としての視点から考えていきます。

【出演】

ルポライター 丸山美和（まるやま・みわ）さん

宇都宮市出身で県立日光自然博物館や出版社を経てフリーに。

2018 年からウクライナの隣国ポーランドに留学し、現在は大学に勤務している。

栃木放送生ワイド番組「アクセント（accent）」にも過去 5 度出演。11 月 15 日にポーランドにミサイルが着弾した際には、速報として現地ポーランドからのレポートを届けた。

【内容】

- ・スタジオでの丸山さんの一人語りと丸山さんが現地で収録した音楽など
- ・ウクライナでの人道支援の話 ➡ 国境付近のポーランドの人は何を思っているのか？
- ・実際に現地入りする前との心境の変化
- ・どんな思いで人道支援をしているか
- ・日本にいる頃との平和の捉え方の違いや気持ちの変化

各委員からは、

○地元のラジオ局が海外の戦争について明るい話ではなく深掘りして放送することは大切だと感じた。特にウクライナ情勢が悪化している中、ポーランドからの報道が続くことは良いと思う。感想としては、ラジオだと地理的な理解が難しく、地名や国境に関する説明がわかりにくい。テレビや新聞のように地図や写真がないと難しいと感じ、克服する課題がある。番組の内容については、ゲストの経験に焦点を当てたが、なぜ事態がこうなっているかについてもっと先に進んでほしかった。また、ウクライナが責められている一方で、なぜロシアが攻めているかについての説明が不足していたと感じた。ジャーナリストならば、もう少し客観的に語ってほしかった。加えて、ウクライナとポーランドの関係についての説明がなく、ポーランドが冷たいと思われている可能性に触れてほしかった。最後に、

日本が島国で平和であるという話はある程度ありきたりで、もう少し現地の状況に焦点を当ててほしかった。総じて、番組を続けてほしいとの希望がある。

○ルポライターの丸山さんのプランが最大限に活かされ、聞いている人に考えを促す構成が良かった。番組を通じて海に囲まれた日本人と他国に囲まれた人々の違いを考えさせられた。番組では、1930 年のスターリンの行動やロシアの歴史についての解説もあり、考えさせられる内容が充実していたので聴いたあとに自分で調べるきっかけにもなりそうだと感じた。総じて、考えさせられる素晴らしい番組で、続けていくべきだと思います。

○ロシアのウクライナ侵攻から 1 年以上も経過しており、悲惨な現状をニュースでみることに慣れてはいけませんが、正直、「平和」への想いが薄れつつある自分を反省しました。今回は、言葉や音で伝えるラジオだからこそ出来る良い企画で、丸山さんの語りと音楽とナビゲーターの調和がとれていて、自分の思考に訴えかけられる、考えさせられるという放送内容でした。島国である日本にとっての隣国とは異なり、大陸続きで国がそれぞれ存在する中で、国境を超えると状況が一変し、人道支援も非常に危険であることがわかりました。「死んだまち」と表現されたことも印象的でした。こうした番組企画は継続することが重要だと思いますので今後も期待いたします。

○番組を聴いて、何度も聞きたくなる内容だった。ウクライナ・ロシア戦争で自分が知っている情報は限られており、番組を通じて新しい情報に触れることができた。30 分の短い時間でありながら、耳で聞きながらも情景が広がるような感覚があった。小暮アナウンサーの語り口調がゆっくりで聞きやすく、重厚感があり、調和が取れていた。また、戦争を題材にした番組では、母でありライターとして活動する丸山さんの話が深いので、戦争を通して生きることにについて考えさせられた。栃木の方ならではの番組だと感じ、これからも継続して聞きたいと思った。

○ナビゲーター小暮さんの落ち着いた語りと行間を埋めるような説明に、丸山さんの臨場感溢れる報告が入る内容構成が非常にわかりやすく、日本から遠い国のことなのですが、リスナーも我が事として捉えられると感じました。現在のウクライナ侵攻の背景や現状についても現地において肌で感じているからこそ、その状況が目の前に広がるような説明でした。現在、イスラエルによるガザ侵攻がある中、ウクライナへのマスコミによる取り上げが少なくなっていると感じますが、引き続き、現地で活動しているからこそのご報告をお願いしたいと思います。

○ロシアのウクライナ侵攻が始まってから約 1 年半が過ぎ、マスコミ等での報道が少なくなってきたなか、現地での状況を踏まえ、戦争の悲惨さや平和の大切さ、人道支援の素晴らしさを伝える良い番組である。しかしながら、時間の関係もあると思うが、在住してい

るポーランドについて、難民受け入れや武器供与など、積極的にウクライナの支援を行っているが、ロシアがウクライナの黒海からの穀物輸出を妨害していることに起因し、ウクライナが陸路ポーランド経由で穀物を輸出していることによりポーランドの穀物価格が下落し、現在、ウクライナとポーランドの関係が悪化していると報道されているが、そのことには全然触れられておらず残念であった。また、人道支援に訪れたウクライナの都市について、位置関係など若干説明があったが、人口規模や都市の特徴、現地の街の状況などそれぞれの都市の説明があった方が理解しやすいと思った。全体的に感じたのは、丸山さんのウクライナでの人道支援のレポートが主であり、予算の関係もあると思うが、「栃木放送開局 60 周年記念」と銘打った番組としては、もっと内容を充実させて欲しかった。

○番組を聴き始めてから、なぜ戦争が起こるのかについて考えるようになりました。我々はさまざまなメディアからの情報しか得られず、持っている情報は非常に限られていると感じています。丸山さんの現地での人道支援活動は価値のある情報であり、人道支援に関するテーマをもっと広く紹介することが良いと思いました。他にもウクライナの人々に支援を行っている方々の取り組みを知らせ、リスナーにその大変さを伝えることも重要だと考えました。

○30 分番組という制限がある中、紛争地で活動されている方のレポートは非常に興味深く、平和な日本との比較から素晴らしい人生を送っていると感じた。今回は 1 リスナーとして、実際に行動に移せるかを自問しながら番組を聴いた。音楽も素晴らしく、もっと聞かせてほしいと思ったが、時間の制約があったと理解している。いくつかの参加者が指摘したように、小暮アナウンサーのナビゲーションは非常に良く、進行の仕方が素晴らしいと感じた。

○戦争がなかなか止まらず、政治家に対する不満があります。日本政府はどうして何もできないのか。戦争は歴史の一部であり、他国に働きかける責任があると感じます。ウクライナの状況について政治家が働きかける必要があり、それによって日本の立場も変わるかもしれません。また、番組の中身については不十分で、政治家が取り組んでいることや、もっと深い解説が欲しいと思います。現地報道は新鮮さがあるものの、テレビで同じような報道が繰り返されているため、苦しさや無力感を感じます。ただし、昔の平和な時代における取り組みを振り返り、人道を前面に出して戦争をやめるような番組発信を期待しています。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他 令和5年地上基幹放送局の再免許に当たっての要請についての報告。

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」(2023年12月10日)
- ② 当社のホームページに掲載(2023年12月11日)
- ③ 当社事務局に議事録備え置き(2023年12月11日～)

以上